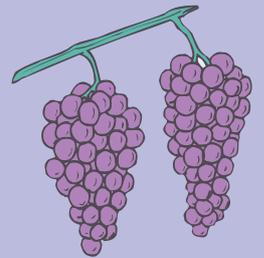


個性が輝く
おんな & おとこ
まちが輝く

とっぎゃざー

みんな 仲良く 一緒に

2012.9.第7号



八女市男女共同参画の実現に向けて

情報誌「とっぎゃざー」は、男女ともに個性と能力が十分に発揮できる八女市を願って名付けました。

大谷初美さん
小川佳織さん
小田貴和子さん
加藤里香さん
立山紗希さん
中村泰子さん
野田裕子さん
松岡由希子さん
松延和泉さん
(五十音順)



八女市消防団

田中 綾さん
中島真由美さん
松尾幸代さん
松尾祐里さん
松崎剛子さん
(五十音順)



八女市立花消防団



9月1日は防災の日です。1923年（大正12年）に起きた関東大震災の教訓を忘れないという意味と、この時期に多い台風への心構えの意味も含めて1960年（昭和35年）に制定されたものです。

今回は、防災の日に因んで、市内で活躍されている女性消防団員を取り上げました。取材に応じていただいたのは、団員の一部の方々です。立花町は6月10日に行われた『迎春三区防災防犯訓練』での様子、八女市は6月22日、八女消防署で夜の訓練の様子を取材させていただきました。

Q 入団の時期と団員構成を教えてください。

立花 女性団員の半数以上が平成十七年十月の立花町消防団再編時に、予防広報部へ入団しました。現在団員は二十五名です。十代から五十代と幅広く、今年初めまでは大学生もいました。
八女 八女市消防団の女性消防隊は平成二十一年四月に発足しました。毎年三〜五名入れ替わりがありました。今年には六名の新団員が入団し、現在二十三名です。

Q 入団しようと思われたきっかけは何ですか。

立花 発足時にお誘いを受け、やるからには知り合いをたくさん作って、楽しみたいと思いました。
八女 (Aさん) ボランティアに興味があったので入団しました。
(Bさん) 応急手当の普及員の資格を取りたかったので入団しました。

Q 活動していて良かったことをお聞かせください。

立花 同じ立花町に住んでいても知らない人が多かったのです

が、知り合いが増えました。顔を覚えていただいで、声をかけてもらうこともあります。



人工呼吸法の指導(立花)

八女 年齢を問わず、同じ志を持った仲間に出会えた事です。昨年は全国女性消防操法大会に出、優秀賞を獲得しました。出場に向けて、仕事をしながら週に三日、夜、訓練をしました。皆で頑張った仲間意識は今後も続いていくと思います。

Q 活動していて困ったことはありますか。

立花 定員二十五名を維持するために、団員確保が大変です。「どうせ火は消しきらんとやら？」という声もあり、私たちの役割や活動内容も余り知られていないようです。

八女 家庭を持っていてる人は子どもの学校行事や地域の自治活動と重なったり、介護とかヘル

パーの仕事の人は夜勤もあり、スケジュール調整が大変です。

Q 家族や友人など周りの反応はどうですか。

立花 初め活動に反対していた家族が、おじいちゃんが意識をなくした時、私の冷静な対処を見て、その後、活動に理解を示してくれるようになりました。また、いざ火災が発生した際や緊急時の機転、落ち着いた周囲への指示などができるのは、日頃の訓練の成果だと思っています。

八女 「頑張るねえ」とよく言われます。最近こそ知名度が上がってきましたが、最初の頃はびくびくされるのが多かったんです。いつもポンプ操法をしていると思われるので、消防団員は力があるというイメージを持たれていましたから。確かに体力はあると思いますが…(笑)



小隊訓練 (八女)

Q 女性だからこぞ出来ることはありますか。

立花 男性団員より親しみやすく声を掛けやすいからだと思いますが、消火器の使い方などを聞かれます。又、数年前から独居老人のお宅の訪問をしています、喜ばれています。

八女 女性ならではの特性を活かし、自分の住んでいる地域の方々の安全を守る活動が出来れば良いなと思っています。

Q 女性が防火活動に積極的に参加するために必要なことは、何だと思えますか。

立花 「自分の家族は自分が守るんだ」という意識が必要。そのために何を身につけたらいいかを考える。現場では大きな声を出して回りを巻き込み、助けの輪を広げることが重要ですので、ご近所とのコミュニケーションがとても大事だと思います。



八女 仕事の調整とか、家族の協力を仰ぐことには気を配っています。積極性も必要ですね。自分のモチベーションは変わらないです。行くのが当たり前になっていきますし、訓練がきついなと思われていますが、結構楽しいです。

Q 今後の目標を教えてください。



立花 現在、男性団員に交って三名がラップ隊に入っていて、出初式、夜警の時に吹奏します。もっともっとと上手になりたいですね。また、地域の皆さんに近づいた活動したいです。自分の家族、自分の地域は自分で守りたいと思っています。

八女 (Cさん) もう少し地域に密着した活動、例えば、一人暮らしのお年寄りの訪問など女性団員ならではの活動をしたいと思っています。

取材を終えて

男性団員に交って臆する事なく、キビキビと元気に、また楽しく活動している彼女たちを「かっこいい」と思いました。

男性のハード面と女性のソフト面をミックスすることで、多様な防災防火活動の拡大を期待しています。

十八歳以上で、八女市在住か市内に勤務されている方なら誰でも入団できるそうです。ぜひ一度、訓練の様子をご覧くださいませせんか。

女性消防団員は次の様な活動をされています。

- ① 消防団、消防署が行う主要行事への参加
- ② 地域で行う消火・防災・救急訓練などの啓発、指導など
- ③ 災害時の後方支援



(Dさん) 自分を活性化しながら、人の役に立てることに繋げていけたら良いなと思っています。



東日本大震災被災地での短期派遣活動報告

八女市健康推進課保健指導係
山口 美保子



右 山口美保子さん
左 穴見 最子さん



平成23年5月22日(日)～5月30日(月)までの9日間、県の保健師2名と穴見保健師と共に、第14陣として宮城県石巻市に行ってきました。業務内容は、個別家庭訪問による健康状態調査と避難所での健康相談でした。

就職した頃の全戸訪問を思い出しながら、住宅地図を片手に家庭訪問をしました。津波の時の生々しい様子や避難所での生活の様子などを伺い、報道で見聞きする状況とは違った現実を知ることができました。

家族の死や行方不明、家の崩壊など、大変な状況を乗り

り越えながら、わずか2か月余りで以前の生活を取り戻そうとされている姿に勇気をもらって帰ってきました。

現在の被災地状況

福岡県の人的支援である短期派遣は平成23年度で終了しましたが、長期派遣は現在も行われています。

また、避難所については、平成23年12月26日に応急仮設住宅(406団地22,095戸)が完成し、それに続き、同月30日に宮城県内の全避難所が閉鎖となっております。

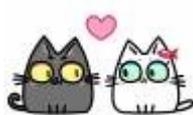
だんだんと
何故か似てくる顔、仕草

(複雑な心境の妻)

あなただけ

それが今では、せからしか

(恋愛も遠い昔の妻)



だいじょうぶ？
薬より効くその言葉

(更年期の妻)



子育てを

終えた今なお夫育て

(大人になりきれない夫の妻)



連れ合いの
顔色何色俺次第

(妻の顔色が気になる夫)

金婚を

迎えてもなお二人して

(愛妻家の熟年夫)



ご飯だよ

言われてみたい夫から

あれ、これ、それ

なに、どこ、だれと聞き返す

孫守り、子守り、夫守り

夫ぐらいは自立せよ

(四十年連れ添ってきた妻)

※この三作は同じ方から投稿

いただいたものです。



7月14日の九州北部豪雨により被災された皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を心からお祈り申し上げますとともに、残暑厳しき折、お体にはくれぐれもお気をつけていただきますようお願い申し上げます。

八女市男女共同参画情報誌編集委員会

災害を体験して



今回の災害で、私自身も被災しました。近くの川が氾濫し、家の2階まであと1m位の所まで浸水しました。なかなか水が引かず、12時間位そのままの状態でした。

その日は避難所に泊まり、翌日家に戻り、恐る恐る玄関を開けると、迎えてくれたのは、倒れて横になったタンスでした。廊下をさえぎる置物、垂れ下がった下駄箱の扉、散乱した靴……。呆気にとられ暫くは動けませんでした。勇気を出して家の上がりました。3cm位に溜まった又ル又ルした汚泥で滑りそうになりながら部屋に入ると、渾然一体となった家具、テレビ、冷蔵庫、電話、畳。啞然とはこのことです。

朝から夕方まで毎日片付けをして12日間で家具、畳が出、床下洗浄を終えました。

被災して感じたことは、家の中に物が多すぎるといことです。生活全般を見直し、果敢に災害に立ち向かう強い精神力と体力を養おうと思えました。また、被災者援助には何が必要か、どういう対応をしたらよいのかを学ぶ体験だったと思います。

私には2階と外壁だけの家が残っていますが、もっと過酷な状況に置かれた方の心中をお察し致します。又、東日本大震災の被災者の方々の御苦労を改めて痛感しました。

こらばれーと Y. N.